

施策評価調書(29年度実績)

施策コード - 1 - (2)

政策体系	施策名	マーケットインの商品(もの)づくりの加速	所管部局名	農林水産部	長期総合計画頁	89
	政策名	変化に対応し挑戦と努力が報われる農林水産業の実現	関係部局名	農林水産部		

【 . 主な取り組み】

取組		
取組項目	マーケットに対応した販売力の強化	産地間競争に勝ち抜く生産力の強化

【 . 目標指標】

指 標		関連する 取組	基準値		29年度			31年度	36年度	目標達成度(%)				
			年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	目標値	25	50	75	100	125
戦略品目の産出額(農林水産業)(億円)	農 業		H25	442	482 (H28)	476 (H28)	98.8%	505 (H30)	599 (H35)
	林 業		H25	169	177 (H28)	189 (H28)	106.8%	186 (H30)	216 (H35)
	水産業		H25	210	222 (H28)	216 (H28)	97.3%	215 (H30)	278 (H35)
	合 計		-	H25	821	881 (H28)	881 (H28)	100.0%	906 (H30)	1,093 (H35)

【 . 指標による評価】

評価	理 由 等	平均評価
達成	<p>農業のうち園芸品目は、単価上昇により白ねぎやこねぎの産出額が増加したものの、夏場の高温でぶどう等の収量や品質が低下したことから、前年と比べて6億円(2.1%)の減となった。この結果、畜産が、子牛や枝肉の価格の上昇により4億円(2.1%)増加したものの、農業全体では2億円(0.4%)の減少となり目標に達しなかった。</p> <p>林業は、新工場稼働によるバイオマス利用の拡大で素材生産量が増加した結果、林業全体で5億円(2.7%)の増となり目標を達成した。</p> <p>水産業は、養殖ブリ類の単価安や養殖クロマグロの一部生産者の生産縮小により、全体で25億円(10.4%)減少し、目標を下回った。 (農林水産業産出額の国の公表が例年約1年遅れ(H29年分の公表はH30年度末)となることから、目標・実績についてはH28年の数値を記載。)</p>	達成

【 . 指標以外の観点からの評価】

取組	指標以外の観点からの評価
	<p>・園芸戦略品目でシェア1位となった拠点市場は10市場となった。特にピーマン選果場(野津)が稼働し処理量が増加した結果、大阪中央青果のピーマンのシェアは28%で1位となり、一昨年の20%(3位)、昨年の25%(2位)から着実にシェアを伸ばした。</p> <p>・RORO船を活用し、関東方面への木材出荷を促進するとともに、東京で行われたWoodコレクションに10社が出展、17社との取引に繋がった。</p> <p>・原木生しいたけについて、京都市場に42名の生産者が出荷した。(出荷量 H28:1,966kg H29:6,581kg)</p>
	<p>・良食味の産地育成に取り組んだ結果、H29年産米の食味ランキングで豊肥「ヒノヒカリ」と西部「ひとめぼれ」が特A評価を獲得した。</p> <p>・H29年12月に県オリジナルのいちご品種「ベリーツ」を初出荷し、県内メディア等を通じて積極的にPRを進めてきた結果、高単価(さがほのかの1.5倍)を維持している。</p> <p>・おおいた豊後牛の競争力強化に取り組んだ結果、第11回全国和牛能力共進会の「種牛の部」での日本一獲得や全区優等賞総合3位の好成績を収めることができた。</p>

【 . 施策を構成する主要事業】

取組	事業名(29年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	30年度の方向性	
	The・おおいたブランド流通販売戦略推進事業	105,401	A	継続・見直し	184
	九州材販路拡大総合対策事業	15,680	A	継続・見直し	185
	新時代の水田農業低コスト化対策事業	39,446	A	継続・見直し	186
	水田作物高付加価値産地づくり事業	14,553	A	継続・見直し	187
	米政策転換対応型水田畑地化推進事業	24,927	A	継続・見直し	188
	活力あふれる園芸産地整備事業	1,654,595	A	継続・見直し	189
	肉用牛生産基盤拡大支援事業	1,344,989	A	継続・見直し	190
	おおいた豊後牛流通促進対策事業	49,634	A	継続・見直し	191
	酪農基盤対策事業	6,945	A	継続・見直し	192
	県産豚「米の恵み」競争力強化対策事業	738,229	A	継続・見直し	193
	おおいた冠地どり流通拡大対策事業	9,609	A	継続・見直し	194
	木材生産コスト低減推進モデル事業	34,758	A	継続・見直し	195
	木造建築物等建設促進総合対策事業	26,630	B	継続・見直し	196
	森林認証材供給体制整備事業	11,010	A	継続・見直し	197
	しいたけ増産体制整備総合対策事業	80,509	A	継続・見直し	198
	しいたけ消費拡大推進事業	12,120	A	継続・見直し	199
	県産水産物流通拡大推進事業	25,268	A	継続・見直し	200
	ヒラメ陸上養殖生産振興事業	10,419	A	継続・見直し	201

【 . 施策に対する意見・提言】

<p>第6回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会(H29.7)</p> <p>・農業産出額が九州最下位になっている(H27)。伸びている分野、伸びている人をもっと大事にし、今まで以上に手厚く支援していく必要がある。</p>	<p>第7回「安心・活力・発展プラン2015」推進委員会(H29.10)</p> <p>・地域の天然資源を活用した持続可能な農業の仕組みを創出することにより、商品としての付加価値がつくので、そういった部分を支援してほしい。</p>
---	---

【 . 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<p>・県産いちご「ベリーツ」への早期転換に向けた栽培技術の普及や施設整備を進めるとともに、SNSを活用した情報発信やコラボ商品の開発などにより、ブランド力を強化する。</p> <p>・国内外に通用するおおいた豊後牛のリーディングブランドを創出するとともに、クリエイターによる販売戦略を展開する。</p> <p>・ラグビーワールドカップなどインバウンドの増加を見据え、大分県が誇る豊後牛、しいたけ、県産魚の食材利用やメニューの英語表記、クレジットカード対応など、外国人観光客にお勧めできる店舗を認定し、PR活動を強化する。</p> <p>・主伐・再造林の低コスト化を図るため、伐採した立木を、枝葉を残したまま丸ごと山林から持ち出す「全木集材」と「再造林」の一貫作業に取り組む経営体を育成する。</p> <p>・「おおいた県産魚の日」を中心とした県産水産物の消費拡大を推進するとともに、講習会の開催により小売・仲買業者の販売力を強化する。</p> <p>・市場評価が高く、産地拡大が見込め、重点的支援により県域出荷体制が整う品目を「園芸戦略品目ネクスト」と定め、大葉、みつば、さといも、キャベツ、キウイ、ホオズキの6品目を選定し、取組市町村の拡大による産出額の向上を図る。</p>